

## 第63回岡山県総合バスケットボール選手権大会 兼第84回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会岡山県代表決定戦

### 女子決勝

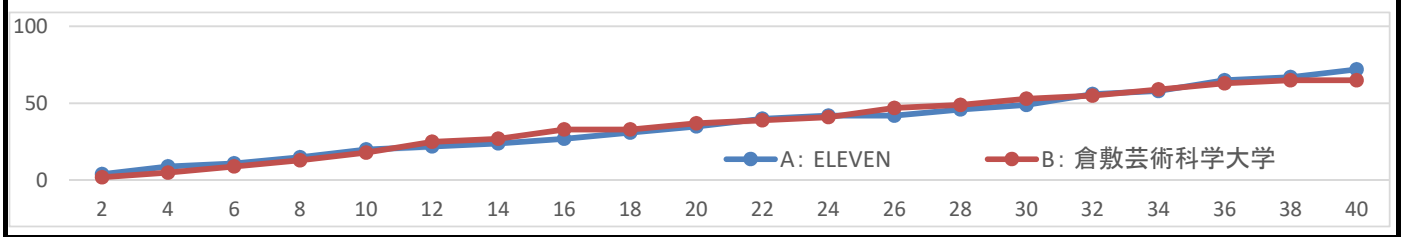
日 時	2017年8月27日(日) 13:20~		
会場名	笠岡総合体育館	( A )コート	

ELEVEN	72	}	20 — 18 15 — 19 14 — 16 23 — 12	}	65	倉敷芸術科学大学
--------	----	---	--	---	----	----------

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
菅野 千尋(CAP)	5	20	4	2	4	4	梶原 詩乃	10	0				
丹下 真帆	6	0					登 優雅	11	4		2		
大塚 千愛	7	3	1				武田 葉菜	13	3	1			
佐藤 唯	8	0					西谷 佳純	15	0				
岡田 七海	9	12	2	3			信藤 菜々	17	0				
菊本 美祐貴	11	0					久山 羽菜	18	12		6		1
篠岡 瑠美	12	0				2	高橋 実鈴	20	4		1	2	2
犬飼 ひろ美	13	22		11		1	児玉 彩奈	22	2			2	2
川端 みのり	14	0					那須 友莉奈	23	15	1	5	2	1
植村 円香	15	12		5	2		加藤 萌恵	24	0				
藤原 こころ	16	0					山永 友美(CAP)	27	17	1	7		3
原 絵美	17	3		1	1		難波 花梨	28	8	2	1		
下條 真奈	18	0											
合 計		72	21	44	7	7	合 計		65	15	44	6	9

### 戦 評

初優勝を狙う倉敷芸術科学大学(学連①)と試合巧者のELEVEN(クラブ①)との決勝となった。両者ともマンツーマンディフェンスでスタート。ELEVEN#13犬飼のゴール下シュートで先制。その後も#9岡田の3ポイントシュートや#13犬飼のスチールからのレイアップシュートなどで、ELEVEN9-2倉芸とするが、倉芸も#27山永の3ポイントシュートや#18久山の速攻からのジャンプシュートなどで対抗。その後もELEVENは#13犬飼のジャンプシュートや#5菅野の3ポイントシュートなどで得点を重ねるが倉芸も#18久山の速攻からのジャンプシュートやレイアップシュート、#28難波の3ポイントシュートなどで対抗しELEVEN20-18倉芸で終了。2P、ELEVEN#13犬飼振り返ってからのジャンプシュートで先制するも倉芸も#27山永#23那須のジャンプシュートで対抗。ELEVENが6分28秒でタイムアウト。その後ELEVENはシュートが落ちだしたところを#23那須や#11登などがジャンプシュート、レイアップを決める。しばらく一進一退の攻防が続き、ELEVEN35-37倉芸で終了。3P、ELEVEN#7大塚の3ポイントシュートや#15植村がフェイドアウェイシュートを決めるが、倉芸も#27山永がドライブイン、ジャンプシュートで対抗する。倉芸はディフェンスにプレッシャーをかけはじめ#18久山、#28難波が連続3ポイントシュートを決めたところでELEVENすかさずタイムアウト。ELEVEN#5菅野がスローインからのジャンプシュート、ゴール下を決め、#9岡田もスチールからレイアップシュート#5菅野も3ポイントシュートを決める。倉芸も#18久山や#23那須が速攻を決め、ELEVEN49-53倉芸で終了。4P、ELEVEN#5菅野の3ポイントシュートで先制。倉芸も#27山永がジャンプシュートを決めるなどして対抗。ELEVENも#15植村がゴール下レイアップシュート、#5菅野の3ポイントシュートや#13犬飼もジャンプシュートで突き放す。残り4分53秒、ELEVEN65-57倉芸となったところで倉芸タイムアウト。倉芸がさらにあたりを強め#23那須のジャンプシュート、#18久山がリバウンドシュートで追い上げようとするが、ELEVENも#15植村がゴール下裏をつき#13犬飼もゴールへ縦に走りこんでレイアップシュートを決めるなど、その後も落ち着いてボールコントロールし、最後に#17原がダメ押しのレイアップシュートを入れ、ELEVEN72-65倉敷芸術科学大学でELEVENが2年ぶり4回目の優勝を決めた。



## 第63回岡山県総合バスケットボール選手権大会 兼第93回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会岡山県代表決定戦

### 男子決勝

日 時	2017年8月27日(日) 15:00~		
会場名	笠岡総合体育館	( A )コート	
ナカシマ	64	$\left. \begin{array}{l} 15 \text{ --- } 22 \\ 15 \text{ --- } 20 \\ 15 \text{ --- } 23 \\ 19 \text{ --- } 19 \end{array} \right\}$	84      ファイズンズ岡山

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
阿部 祐也	0	9		3	3	3	佐藤 朋信 (CAP)	1	9	1	3		1
中島 直幸	1	0					大橋 雄太	2	0				
横山 龍	2	0					岸本 祥也	5	5	1	1		
末富 義隆	4	0					中西 祥一郎	6	6		3		1
山口 時生	6	0					奥山 瑛介	7	0				
山野 俊介 (CAP)	14	20		9	2	1	粟井 洋充	8	0				
杉本 智広	15	4		2		2	田上 靖浩	9	13	1	5		1
岡田 陸人	18	4		2		1	木村 晋輔	13	5	1	1		
寺下 佳希	20	6	1		3	3	谷口 巨将	14	15	2	4	1	1
伊藤 実希	31	0				1	石原 健一郎	18	4		2		3
松本 克也	41	11		5	1	2	大嶋 将之	26	0				
竹林 克也	51	10	2	2		1	芳上 卓	31	0				
赤木 雅道	91	0					岸本 祐也	35	10	1	3	1	
							中島 聡	39	5	1	1		3
							藤高 竜一	45	2		1		1
							辻本 雅敏	91	10		5		2
合 計		64	9	46	9	14	合 計		84	24	58	2	13

**戦 評**

男子決勝はナカシマ(実連)とファイサンズ岡山(クラブ①)の昨年度の決勝と同じ対戦となった。

1P、両チームともハーフマンツーマンディフェンスでスタートする。ナカシマは#14山野のミドルシュートで先制。対するファイサンズも#14谷口がカウントワンスローを決め、互角の立ち上がりを見せる。ナカシマはインサイドの#41松本の連続得点で主導権を奪おうとするが、ファイサンズも#14谷口がスティールから3ポイントシュートを決めるなど速い展開で応戦する。ナカシマが#18岡田のドライブ、アシストで得点するが、ファイサンズ#14谷口の外角のシュートがよく決まり、#18石原がリバウンドからシュートを決めた残り57秒、6点差となったところでナカシマがタイムアウト。終了間際に、ファイサンズ#35岸本祐がフリースローを1本決め、ナカシマ15-22ファイサンズで1P終了。

2P、開始早々ファイサンズ#35岸本祐がスティールから得点する。ファイサンズは速いパス回しでボールをコントロールし、#13木村が外角のシュートを決めるなど、リードを広げていく。ナカシマも、#41松本がカウントワンスローを決めるなど差を縮めようとするが、残り5分ファイサンズ#39中島が3ポイントシュートを決め、12点差としたところでナカシマのタイムアウト。その後、ナカシマはチームファウルから得たフリースローを確実に決めていき、一時8点差と追いつけるが、ファイサンズの堅い守りになかなか得点できず、ファイサンズは得たチャンスを確実に得点に結び付け、ナカシマ30-42ファイサンズで2P終了。

3P、ナカシマ#14山野の得点で始まる。ファイサンズは#91辻本が立て続けにジャンプシュートを決め、差をさらに広げていく、一方ナカシマも#51竹林の3ポイントシュートで追いつけるが、ファイサンズの勢いは止まらない。残り4分、ナカシマはゾーンディフェンスに切り替え#41松本の得点で流れを引き戻そうとする。しかし、ファイサンズはリバウンドから速い展開に持ち込み、残り2分#35岸本祐が速攻を決めたところで、ナカシマのタイムアウト。直後ナカシマ#20寺下の3ポイントシュートが決まるも、ファイサンズはオフェンスリバウンドから確実に得点し、さらにリードを広げ、ナカシマ45-65ファイサンズで3P終了。

4P、ファイサンズは#35岸本祐の3ポイントシュート、さらに#9田上の連続得点でさらにリードを広げ、最大22点差となった残り6分でナカシマがタイムアウト。その後はお互いに懸命のディフェンスで得点が伸びないが、ファイサンズは#1佐藤、ナカシマは#14山野、#41松本らの得点で一進一退の攻防となる。終了間際にファイサンズ#5岸本祥がジャンプシュート、3ポイントシュートを決め、会場を盛り上げた。ナカシマ64-84ファイサンズで、ファイサンズが前年度の雪辱をし、2年ぶり15回目の優勝を果たした。

